

## 炎症性腸疾患

炎症性腸疾患の代表的な疾患として、潰瘍性大腸炎(UC)とクローン病(CD)があります。両疾患ともに右肩上がりの増加を示しており、現在 IBD の患者数は、全国で UC:14 万人、CD:4 万人前後と推定されています。

これらの疾患はいずれも病態によっては外科手術を必要とします。十分な内科的治療が施されているにもかかわらず、治療に抵抗性であったり、一時的に改善がみられるものの難治性の場合には外科治療を行います。また急激な病勢の悪化により緊急手術を行わざるを得ないこともあります。さらにこれらの疾患は若年で発症することが多いのが特徴で、治療には就学、就職、結婚、出産など大切な人生の転機への配慮も必要です。最近では、このような炎症性腸疾患に対する手術においても腹腔鏡手術を取り入れ、術後の負担軽減はもちろん整容性にも配慮した患者様の満足度の高い治療を心掛けています。

当院ではこれら手術の適応となる患者様に対して、院内の消化器内科ならびに他の医療機関と連携しながら治療に取り組んでおります。

潰瘍性大腸炎とクローン病については、「大腸良性疾患」のバナーの中の4)潰瘍性大腸炎と5)クローン病についてもご参照ください。